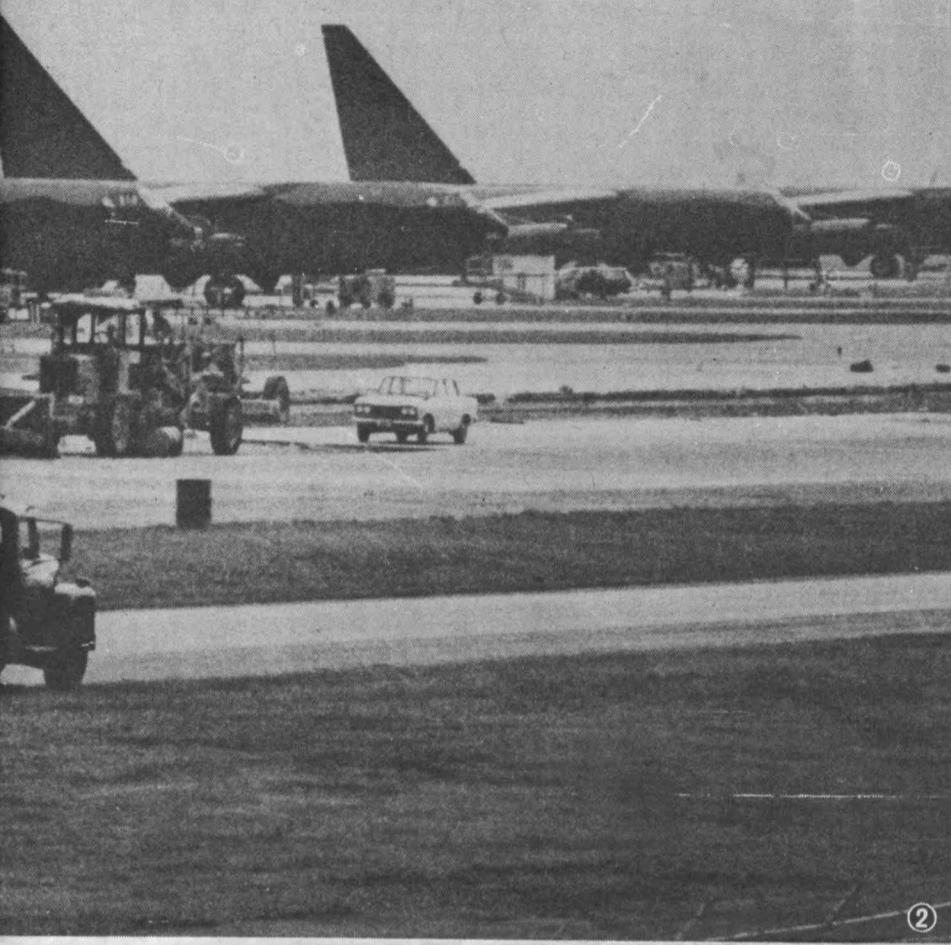


還返繩沖



が本土に復帰することになった。これで25年間にわたっての沖繩がアメリカからの支配を断ち切って核も基地もない南国の楽園に戻ら、米軍は依然として沖繩に存続し、沖繩県民はそのもとで、まららの望んでいた沖繩返還とは、核も基地もない平和な島と、彼らが移っただけのふざけた返還ではないのである。しかし、実際にもららの欺瞞に満ちた沖繩返還に対する県民の怒りが、彼らの生活から市でおこった10万人参加の大ゼネストであった。このような状況か。それで新聞局では、返還に関するさまざまな問題点を取り上げた。

返還の意義とその要求

沖繩にとって本土復帰とはどういう意味をもっているのだろうか。そして、返還運動の原点はどこにあるのだろうか。

沖繩の歴史は犠牲に終始

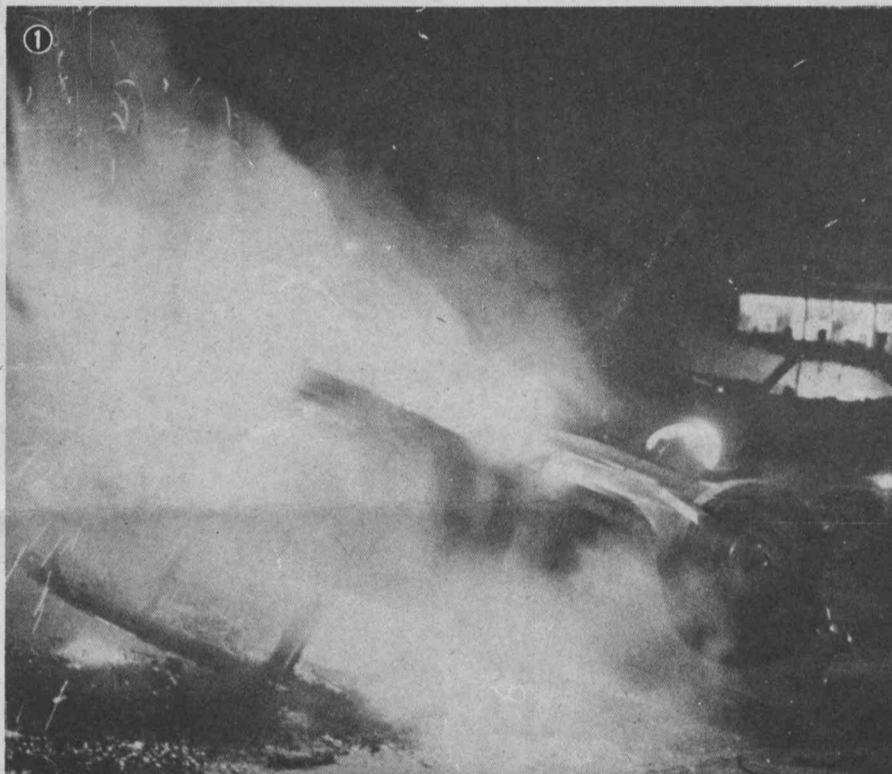
琉球として、文化的には日本と中国の間のやや日本より位置していた沖繩が日本に正式に編入されたのは、明治維新の一環として行なわれた「廃藩置県」以来である。その後、大日本帝国下においては、ほとんど「国民意識」をつくるための政策しか行なわれず、太平洋戦争では唯一の地上戦戦場となり、戦後は四半世紀にわたる異民族統治が行なわれてきた。このように、日本によってしいたげられてきた沖繩ではあるが、日本人が住んでいることは明白であり、同一民族が同一政治体制下に入り、同一生活を営む、ここに、民族的要求としての沖繩返還が叫ばれるのである。

沖繩は、米軍による戦時占領を経て県民の意思が問われることな

平和憲法のもとへ還る

初め沖繩の本土復帰は、民族的要求として行われていた。しかし本土へ復帰しても、安保があるから基地はなくならないというこころがはつきりするにつれ、日本国憲法の、平和憲法のもとへ還るん

- ①70年12月20日、コザ市で米兵によるひき逃げ事件に戦後25年の占領支配に対する怒りが爆発した。
- ②加手納基地の黒い殺し屋B-52
- ③市内を毒ガス輸送する米軍トラック
- ④米軍射撃場で坐り込む沖繩県民



返還協定・その問題点

日本政府は核抜き本土復帰の限つきで復帰後返還される。一方策に背馳しないように実施する。沖繩返還が実現したと大いにその意義を強調して、第七心理作戦部隊(朝鮮・ベトナム・中国などに謀略宣伝、内時にこのも言っている。これに部かく乱のピラをまいたり、放送「安保条約で結ばれている同盟国いっせいに返還を行なう」、SR七十一戦術偵察機、P3哨戒機等が残され、VOち入って調査はできぬ。一九六九年の佐藤、ニクソン会談での約束「米軍が臨時に核兵器を持ち込むことができ、米軍の艦船に「信じてく日本に寄港、着陸できる」と、以上のことから、私達が「核抜きは明確か」という命題民に示すのが当然のことなのである。

核抜き依然不明確

日本政府は核抜き本土復帰の限つきで復帰後返還される。一方策に背馳しないように実施する。沖繩返還が実現したと大いにその意義を強調して、第七心理作戦部隊(朝鮮・ベトナム・中国などに謀略宣伝、内時にこのも言っている。これに部かく乱のピラをまいたり、放送「安保条約で結ばれている同盟国いっせいに返還を行なう」、SR七十一戦術偵察機、P3哨戒機等が残され、VOち入って調査はできぬ。一九六九年の佐藤、ニクソン会談での約束「米軍が臨時に核兵器を持ち込むことができ、米軍の艦船に「信じてく日本に寄港、着陸できる」と、以上のことから、私達が「核抜きは明確か」という命題民に示すのが当然のことなのである。

沖繩の経済的自立を

沖繩県民の望んでいた沖繩返還とは、先にもあげたように、核も基地も毒ガスもない島と平和憲法への復帰であった。しかし彼らの願いは、無惨にふみにじられたとしか言いようがない。米軍基地は



